

戦時下の暮らし

1 / 1

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

平成

今日の問い

戦争のなかで、人々の暮らしはどのように変わっていったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 戦時下の暮らし

動員される人々

はいきゅうせい
配給制

食料や衣類などを、決められた量だけ分ける制度。

きんろうどういん
勤労動員

学生や女性が工場などで働かされたこと。

がくとしゅうじん
学徒出陣

大学生などが軍隊に召集されて戦場へ送られたこと。

戦争が長引くと、食料や日用品が不足し、米や砂糖、衣類などは切符や通帳による**配給制**になった。金属が不足したため、家庭の鍋や寺の鐘も供出させられた。男性が戦場へ送られると、労働力が足りなくなり、中学生や女学生、独身の女性が軍需工場などで働かされた(**勤労働員**)。1943年には、文科系の大学生などの徴兵猶予がなくなり、**学徒出陣**で多くの学生が戦場へ向かった。

朝鮮や台湾などの植民地や占領地の人々にも、戦争への協力が求められた。朝鮮では日本式の姓名を名のらせる創氏改名が進められ、のちに徴兵制もしかれた。意思に反して日本に連れてこられ、工場や鉱山などで働かされた朝鮮人や中国人も多かった。戦争に動員されたこれらの人々の中には、厳しい環境で命を落とした人もいた。

できごと	対象	内容
配給制	国民全体	食料・衣類などを切符で分ける
勤労働員	学生・女性	軍需工場などで働く
学徒出陣	大学生など	徴兵されて戦場へ向かう

2 空襲と疎開

都市への爆撃

くうしゅう
空襲

飛行機が空から爆弾や焼夷弾を落とす攻撃。

とうきょうだいくしゅう
東京大空襲

1945年3月10日に東京の下町を中心に起こった大規模な空襲。

そかい
疎開

空襲をさけ、都市から地方へ移ること。

1944年の終わりごろから、サイパン島などを基地としたアメリカ軍の爆撃機が飛来するようになると、日本の主な都市は次々と**空襲**を受けた。工場だけでなく住宅地もねらわれ、木造の家が多い都市では、焼夷弾による火災で大きな被害が出た。1945年3月10日の**東京大空襲**では、東京の下町を中心に約10万人が亡くなったといわれる。

都市の子どもたちは、空襲から守るため、親元をはなれて地方の寺や旅館などに移された。これを**学童疎開**という。夜は灯りが外にもれないようにし、防空壕に逃げこむ生活が続いた。食料不足もあり、国民の暮らしは苦しさを増していった。

問いへの答え

戦争が長引くと食料や物資が不足して配給制となり、学生や女性は工場で働かされ、大学生は学徒出陣で戦場へ送られた。植民地の人々も戦争に動員された。1944年以降は空襲が主な都市に広がり、東京大空襲などで多くの人が亡くなった。子どもたちは学童疎開をしたが、人々の暮らしは苦しさを増した。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

